

News Letter 第5号

2011年12月1日発行
発行人 主教 加藤博道
編集人 司祭 中村 淳



いっしょに歩こう! プロジェクト

日本聖公会東日本大震災被災者支援



福島第一原発3号機 (東京電力提供)



高圧洗浄機による毎日2回の園舎除染作業 (セントポール幼稚園)

放射能汚染のただ中で

2011年3月11日、東日本を襲った巨大な地震と津波は、福島第一原子力発電所を破壊し、放射能が広範囲に飛散するという、私たちが最も恐れていた事故が発生しました。あれから8ヵ月が過ぎ、飛散した放射性物質は、風に乗って各地に舞い降り、私たちの生活に重大な影響と恐怖を与えています。放射能は人体に対し重大な影響を及ぼします。私たちは、人々の健康と生活を守るために、今、何ができるのでしょうか。とりわけ子どもたちの生命をどのように守ることができるのでしょうか。神様が、不安と恐怖の中に置かれている人々と共にいてくださることを信じます。私たちもいっしょに歩きたいと願っています。いつか人々の笑顔が被災地に戻ってくることを祈りながら。



毎日2回の放射線量測定



福島県の全幼稚園に配布された個人積算線量計を持つ園児



勉強会「放射能汚染と私たちの暮らし」の様子

セントポール幼稚園（郡山市）

園長 菊池 温子

3月11日。突然襲った想定外の地震とその後の原発事故。これまでに経験したことのない大震災の影響で、7ヵ月経った現在も放射線という見えない恐怖の中で時間だけが過ぎ、どこまでが安全なのか分からないまま不安な毎日を送っています。幼児教育の場では、少しでも線量を下げ幼児が安心して通園できるようにと、先生方が除染活動に力を入れ放射線の除去に努め、困難を乗り越えようとしています。しかし、園児の家庭の中には父親だけが1人郡山に残り母と子が県外に避難し、家族がバラバラの生活を送るといった悲しい状況があるのも事実です。どのような状況であれ、家族が揃って生活することが将来に向かって生きていく子どもたちにとって大事なことであり、自主避難をせず郡山に残っている方々のためにも、幼児教育に携わる者として同じ苦しみを抱く立場の方々と協力し、1日も早く子どもたちの元気な声が地域に戻ってくることを願っています。

福島 の 声

『郡山聖ペテロ聖パウロ教会、

セントポール幼稚園除染奮闘記』

東京聖マルチン教会信徒 岡積 丈夫

朝、幼稚園の除染をしていると園児がにこにこしながら手を振ってくれます。震災以来外遊びの出来ない子どもたちは窓越しに、私の行う高圧洗浄機から飛び出す水を不思議そうに興味深く見つめています。飛び交う放射線は見えない、色が無い、臭わない…とてつもなく恐ろしい物質です。

私は郡山の司祭の元で、司祭館に下宿しながら、毎日朝と夕方一日2回幼稚園、教会の除染に汗を流しています。司祭ご夫妻の愛情に触れ、放射線の恐怖より今生かされている喜びで満ち溢れています。

私にとって郡山での除染作業はお祈りそのものなのです。目に見えず、影も形もない悪魔が全ての生あるものに対して痛めつけようとしています。「どうか子どもたちをお守りください」と勢いよく飛び出す水に祈りを込めて、力の限り除染をしながら祈る日々です。

みその幼稚園（福島市）園長 細谷 實

3月11日、当園は創立記念日で休園だったため園児全員が幼稚園で恐ろしい思いをすることを免れました。そして、築37年の園舎も無事な姿でしっかりと“みその”の地に建っておりました。あの時、私は園児も幼稚園も神様によって守られたと思うと共に、私たちは神様に生かされたのだと強く感じました。それ故、今の大きな試練と苦勞に、当園は立ち向かうことができていると思っております。大きな不安の中でスタートした本年度であります。1・2学期に予定していた殆どの行事を園児たちの笑顔と共に何とか行っていくことができました。朝起きると測定器のスイッチを入れ、0.01でも放射線量が下がっていますようにと祈る気持ちで園舎内外7ヵ所の線量をモニタリングする毎日。このような毎日が早く無くなるように、保護者と共に園児たちのために地道に園舎内外の除染活動を行って参りたいと思っております。そして、神様から生かされた幼稚園として、これからも“幼児教育”の使命をしっかりと果たして参ります。

福島聖ステパノ教会信徒 岡田 和人

福島県民は今、ものすごく放射能に詳しくなっています。個人差はありますが、おそらくあまり詳しくない人でも、ほかの県の人と比べものにならないくらいだと思います。私たちは今、放射能と一緒に暮らしています。あの事故当時はこんなことになるとは夢にも思いませんでした。

国や東京電力の対応は、私たちから見れば全く進んでいません。除染の事が発表されましたが具体的なことは全然決まらず、今すぐにも土の剥ぎ取りをしたいのに場所は全く決まっていない。いつまで放射能に囲まれて暮らさなければならぬのか、全くわかりません。

福島県を出るとあまり放射能の事をテレビやラジオで見聞きすることはありません。ですが、福島ではあの事故から時間は止まっています。私たちの生活の周りから放射能が取り除かれるまで、心の安らぐことはありません。皆さんどうか福島の実状を忘れないでください。

プロジェクトとしての活動

- ◆福島聖ステパノ教会と郡山聖ペテロ聖パウロ教会の除染（プロジェクトが業者費用を負担）
- ◆常駐除染ボランティアと臨時ボランティアの郡山への派遣
- ◆勉強会開催（第1回は2011年10月20日(木)仙台オフィス会議室にて行われ、約50名が参加）

【講題】「放射能汚染と私たちの暮らし」～チェルノブイリと福島に学ぶ～

【講師】河田 昌東（かわた まさはる）氏

チェルノブイリ救援・中部（チェルノブイリ原子力発電所事故の被災者を救援する事業を行い、国際協力と人権の擁護に寄与することを目的としているNPO法人）の理事として、20年以上にわたり、チェルノブイリ原発事故による被害調査や被害者救援活動に尽力していらっしゃる方。

【講義内容】

1. 福島原発事故とチェルノブイリ原発事故との比較（放出されたセシウム量による比較）
2. 外部被ばくと内部被ばく
3. 放射線に関する各種単位
4. 今、必要なこと
5. 土壌汚染とその対策
6. 被ばく対策

<今後の活動計画>

- ◆除染作業（ボランティア派遣等）
- ◆お外で遊ぼう！プログラム（福島の子どもの短期疎開）

プロジェクト事務局から

10月の活動（仙台圏ベース）

■名取市仮設住宅

名取市社会福祉協議会からの要請によって、毎週木曜日の買い物バスが2カ所に増えました。午前箱塚桜団地、午後新しい仮設住宅を対象に行っています。



■気仙沼地区

週前半、室根聖ナタナエル教会をベースとして気仙沼地区への支援を開始しました。クッキー買上支援を行っている「ひまわり」で通所者さんへの支援、ご家族への支援を行っています。通所者さんの多数は仮設住宅から通っておられます。不慣れた場所も多く、役所・通院のための送迎も行っています。



■外国人支援

南三陸町志津川でのフィリピン人女性たちへの日本語教室は順調に進んでいます。10月から三幸福祉カレッジというホームヘルパー養成講座を持つ

学校と協力して志津川での出張講座が始まりました。来年5月くらいまでの資格取得を目指しています。次の支援先についても候補があたりつつあります。



お知らせ

■ボランティア募集のお知らせ

各ベースでのボランティア募集は基本的にホームページに掲載しています。釜石ベース、小名浜ベースでは継続的に募集していますが、状況に变化がありますのでホームページでご確認のうえ直接お申し込みください。ホームページ掲載情報を周囲の方と共有してくださると幸いです。

【URL : <http://www.nskk.org/walk/index.html>】

■ニュースレターについて

事務局ではできるだけ多くの方にプロジェクトの活動をお分かりいただきたいこと、写真を使用し、わかりやすくお伝えしたいことを目標として発行しています。現在各教区報の合計部数を発行しています。一部あたり約7円の費用がかかっていますが、目的のためには必要なことだと判断しています。ご理解をいただけると幸いです。今後ともよろしく願いいたします。

「いっしょに歩こう！プロジェクト」 収支のご報告

主のみ名を賛美いたします。

3月11日の大震災、大津波、それに続く原子力発電所の大事故から8ヵ月が過ぎようとしています。被災地域の広大さ、被災された方々の膨大さ、現在も続く放射線の影響等、今に至っても立ちすくむような状況が続いています。そのような中「いっしょに歩こう！プロジェクト」は皆さまのお祈りとご支援に支えられて、その活動を続けることができています。ご支援の一端である募金の受付状況と用途について9月末日現在の収支をご報告させていただきます。

募金総額 173,479,806 円

内訳	国内募金	87,285,506 円
	海外募金	85,827,215 円
	その他	367,085 円 (宿泊感謝、他)

支出総額 134,121,011 円

内訳	被災教区救済費	4,134,040 円	(被災教区への緊急救援金)
	被災建物修復費	86,421,373 円	(各教区教会、幼稚園等の緊急修繕費)
	対策本部費	4,946,657 円	(緊急物資購入、輸送、会議費等)
	各教区対策室支援費	6,486,450 円	(各教区立替清算分)
	仙台オフィス費	21,831,973 円	(事務所費、スタッフ住居費、支援物資購入費、人件費、交通費、車両費、広報費等)
	小口現金仮払い	27,041 円	(オフィス小口現金)
	釜石ベース費	5,617,306 円	(事務所賃料、事務所改修費、備品等)
	小名浜ベース費	2,700,008 円	(活動費等)
	新地町ベース費	673,512 円	(活動費)
	外国人支援プログラム	809,757 円	(志津川外国人支援プログラム)
	しょうがい者支援プログラム	472,894 円	(クッキー、まゆ玉買上等)

収支差額 39,358,795 円

9月末日現在まではおもに緊急支援物資の購入・運搬、各ベースの立ち上げ費用(賃貸料、修繕費、備品等)、被災建物の修繕費用等に使わせていただきました。今後は専任スタッフの人件費等の支出が増えてくることが予想されます。これはプロジェクトの活動が緊急支援から生活再建、放射線被災者への支援等、プログラムの遂行に人同士の関わりがより重要とされることが予想されるためです。

どうか、現在も被災中である方々をお覚えいただき、今後とも続いていくであろう支援のためにお祈りとお支えをお願いいたします。

2011年11月

日本聖公会「いっしょに歩こう！プロジェクト」運営委員会



「いっしょに歩こう！プロジェクト」事務局

【open】月～金 10:00～17:00 【close】土・日・祝

〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町3-4-5 クライスビル 2F

TEL:022-265-5221 FAX:022-748-5321

E-mail: walk@nssk.org URL: http://www.nssk.org/walk/